

森美術館展示のための待庵原寸再現模型制作を通じたものづくり教育と建築文化の普及啓発



① - 完成した待庵原寸模型制作の外観



② - 大学実習場内での木工班による柱仕口加工



③ - 金物班による和釘の鍛金加工



④ - 展示物として軽量化のため東石、差石の切断



⑤ - 木仮組の様子 美術館にて本組みのため解体



⑥ - 美術館展示室内での左官仕上げ



⑦ - 予め加工した竹材を展示室にて葺で覆む



⑧ - パネル化した土間庇の取付け



⑨ - 完成した室内の様子 土壁の上に壁紙貼り



⑩ - 美術館での見学の様子



ものづくりプロジェクトメンバー
 明田公彦 / 大竹由理 / 三原秀 / 町田清之
 市川茂樹 / 西原美 / 松本宏行 / 武城雄
 小林晴史 / 船橋美 / 藤本和治 / 金澤明
 鈴木元 / 森島義典

活動の経緯

国宝《待庵》は、現存する日本最古の茶室で、千利休作と伝えられており、現代まで国内外の建築に大きな影響を与えた。待庵プロジェクト教育チームは、2018年4月25日から9月17日まで、森美術館（東京・六本木）で開催された「建築の日本展：その遺産のもたらすもの」に展示された。国宝《待庵》の原寸再現模型制作、および、制作に関する学生指導を行った。このように、国宝の建築物を原寸で再現することは希であり、また、その制作を学生に取り組ませることは極めて先進的、かつユニークな教育である。

再現にあたり、ものづくり大学の教職員および職人でもある非常勤講師らが、学生40名に対し、伝統工法から3Dプリンターの使用方法まで指導した。まず、実測図をふまえて図面を制作した。さらに、会場の展示替期間が短いため、学内で木・竹材及び石材加工、建具や和釘及び鬼瓦の制作、塗装、土壁の施工方法の検証を行った。仮組後搬入のため一度分解し、その後展示室内で再び建て方を行い、土壁を塗るという工程で制作した。また、美術館では、原寸模型内に入り見学できるようにした。

また、ものづくり大学では、2010年より、世界的名作と称される住宅や工業製品などを原寸で忠実に再現し本物のものづくりを手触りで体感する「世界を変えたモノに学ぶ・原寸プロジェクト」という教育プログラムに生きた教材の制作を手がけており、本業績もその一貫である。

本業績は、待庵の原寸再現模型制作を通じてのものづくり教育と建築文化の普及啓発に努めたことが評価に値するが、それより以前から同大学では原寸でのものづくりを通じて建築の設計と施工の技術を総合的に習得する教育を継続的に展開しており、加えて2010年から世界的名作と称される住宅や工業製品などを原寸で忠実に再現する教育プログラム「世界を変えたモノに学ぶ・原寸プロジェクト」も展開することで、深いアクティ

ブ・ラーニング、特にチームワークや身体的な関わり、施工技術への理解など、現代の建築教育において課題とされているテーマに対してひとつの解決策を提示している点が特筆に値する。同大学におけるこうした傑出したものづくり教育の成果、特に進路や進路先での効果、あるいは学生の学習意欲向上への効果や課題についても聴いてみたい。

藤村 龍至